

オブリガーダ

PORTUGAL

OBRIGADA



2007年5月発行

「オブリガーダ」とは、ポルトガル語で
「ありがとう(女性が言う場合)」の意味です。



大分・日本ポルトガル協会



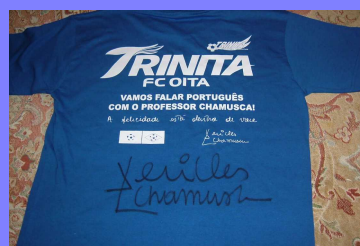
今回は、「ポルトガル語講座」や「アベイロ情報」
などの話題をお届けします。

〒870-8504 大分市荷揚町2-31 大分市国際化推進室内
(TEL097-537-5719 FAX 097-536-4044)

～ シャムスカ監督と語ろうポルトガル語講座 ～



「シャムスカ監督とのトークの夕べ」 2006.12.6



大分日本ポルトガル協会主催、大分トリニータ後援会の協賛により「シャムスカ監督と語ろうポルトガル語講座」が開講されました。募集受講生40名に対し応募総数は140名を超え、非常に高い出席率の中で8回の講座が行われました。講師にトリニータ育成部U-12コーチのリシャルドソン・マガリェンス氏を迎え、あいさつから簡単な日常会話、サッカーの応援フレーズなどを楽しく学習しました。

講座終了後には、シャムスカ監督との食事会が催される中で、受講生自らが学習したポルトガル語を駆使して、自己紹介やトリニータへの応援の言葉を送るなど、監督とのトークに挑戦しました。

会の終わりに、シャムスカ監督から「ぜひ、引続きポルトガル語を勉強してください。何事も失敗を恐れずチャレンジしてください！」と激励の言葉と記念Tシャツが送られると、受講生から大歓声が沸きあがりました。

フィールドは違えど、それはあたかも、ポルトガルとの友好親善の裾野を広げる目的で、“おおいだ”だからできる「オンリーワン企画」として実施された『シャムスカ監督と語ろうポルトガル語講座』が“初ゴール”を決めた瞬間かのようなものでした。



(ポルトガル語講座のようす)

～ Aveiro アベイロからの便り ～

大分日本ポルトガル協会が発足して今年で30周年を迎えましたが、大分とポルトガルとの交流は約450年の長い歴史をもちます。また、来年は大分市と姉妹都市であるアベイロ市との交流が30周年を迎えます。そこで、今回は市職員2名が姉妹都市提携30周年記念事業の協議を目的に、今年2月にアベイロ市を訪れた際の街のようすなどをレポートします。

首都リスボンから快速電車に乗ると約3時間で、美しいアベイロ駅が出迎えてくれます。ポルトガルのヴェニスとも呼ばれるアベイロ市は、しっとりとした古い情緒豊かな水の都です。街の中央を運河が横切り、その水面に浮かぶ色鮮やかなモリセイロ、石畳みで統一された街路、美しいアズレージョの装飾、歴史ある建物が続く街並みは、街全体がまるで芸術作品のようです。(写真 . . .)



現在の駅の構内にある旧アベイロ駅



運河に浮かぶモリセイロ



外壁のアズレージョ

アベイロ市は、アート産業の発展とともに20世紀前半より街づくり力を入れてきた歴史があり、100年以上も前の建築物も修復を施され、現代においても当時の街の雰囲気を残しています。この歴史ある建築物の修復を、アベイロ市は「街の新しい芸術」と捉え、その修復に市が補助を行っています。見事に復元された建物は、ミュージアムに改装されるなど、新しく生まれ変わってもなお、積み重ねた歴史の趣を感じさせるものです。(写真)



アベイロの風景が描がかれたアズレージョ (旧アベイロ駅)



大分市でも見られるアズレージョ (中央町)



修復された歴史ある建物

<アズレージョ : azulejo>

装飾タイル。1枚1枚に絵付けした後、窯で焼き、大きな作品に組み合わせて仕上げられる。絵柄は単なる模様から、歴史的場面、聖人など様々。内外装を問わず建物に彩りを添えるこの装飾は、王宮や教会だけでなく、町の到る所で使われている。ポルトガルでアズレージョが発展したのは、気候風土にこの素材があることや、タペストリーや絵よりも安上がりで同じような装飾性の高い効果が期待できるから。アラブを起源とするタイルはスペイン経由でポルトガルに渡り、1415年の北アフリカ・セウタ攻略をきっかけに更にポルトガル全土に広まった。18世紀に、更に芸術としての幅を広げるが、身近な芸術としても発展。

～ Aveiro アベイロからの便り ～

まるで絵画のような色彩豊かな美しい街・・・アベイロ・・・観光地としても見所が多く、たくさんの魅力が詰まった“おもちゃ箱”のような素敵な都市です。すべてをご紹介できないのが残念ですが、少しでも“おもちゃ箱”を開けてみましょう！

海に近いこともあり、街のレストランでは新鮮な魚介料理が楽しめる。店内にはアンティークで落ち着いた雰囲気が流れ、いろいろな種類の魚をお好みにあわせて調理してもらえる。もちろん、食事のおともは“美味しいポルトガルワイン”で！

ワイン工場のワイン貯蔵通路(地下20メートル)。瓶詰めされたワインが、トンネルの両端にぎっしりと丁寧に並べられている。製造年ごとに大小様々な樽に貯蔵されており、たいへん大きな樽(40年貯蔵)も。今もなお、伝統的なワインの製造工程が守り続けられている。

塩田・・・アベイロは塩の産地であり、広大な塩田沿いに立ち並ぶ塩の山々は、独特の雰囲気をもつ。

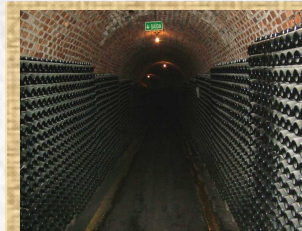
アベイロ市役所・・・窯業工場が改装され、アベイロ市新庁舎として生まれ変わる。夜間にライトアップされた外観はたいへん美しい。

おもちゃのような家(セカンドハウス)が立ち並び、海岸リゾート地“コスタ・ノーヴァ”。

市内の商店街にあるショッピングセンター“セントロおおいた”・・・そのネーミングが大分市との姉妹都市交流を物語る。

駅前のペーストリー店。15世紀から作られているアベイロの銘菓(写真)のほか、種類のお菓子とカプチーノが楽しめる。

アベイロ銘菓“オヴォシュ・モーレシュ”
見かけは最中そっくり！さて、お味の方は？



ポルトガル ミニ情報

日本とポルトガルとの貿易関係

主要な貿易品目については、興味深いことに輸出入ともに「乗用車」がトップになっている。また、建築材に用いられる「凝集コルク」は、ポルトガルの特産物であり、我が国が輸入する「凝集コルク」の約半分はポルトガル産である。

日本とポルトガルとの投資関係

現在、ポルトガルへの日系進出企業数は46社。一方、ポルトガルからの対日進出企業数は1社(コルク製品メーカー)となっている。2005年には、日産とルノーが提携して欧州で7番目の新たな単一法人(SLE)販売組織がポルトガルで設立されている。

(1)貿易収支(出典:財務省貿易統計 2006年)

(金額単位:億円)

年	輸出(日本→ポルトガル) (前年同期比増減)		輸入(ポルトガル→日本) (前年同期比増減)		収支
	金額	シェア	金額	シェア	
2002年	696	-0.9%	180	6.0%	516
2003年	750	7.8%	193	7.5%	557
2004年	1,021	36.1%	214	11.1%	806
2005年	818	-19.9%	215	0.5%	603
2006年	893	9.1%	219	1.5%	674

(2)主要貿易品目(出典:財務省貿易統計 2006年)

(金額単位:億円)

輸出(日本→ポルトガル)			輸入(ポルトガル→日本)		
	金額	シェア		金額	シェア
乗用車	179	20.1%	乗用車	27	12.1%
自動車部品	102	11.5%	コンピュータ等の部品	25	11.2%
ディーゼルエンジン	61	6.9%	有機化合物	14	6.4%
貨物自動車	59	6.6%	トマトピューレ	12	5.4%
集積回路(IC、LSI等)	57	6.4%	革靴	12	5.3%
			凝集コルク	10	4.5%

New

～ コインブラ大学OB合唱団 来日コンサート2007 ～

コインブラ大学のOBコーラス(50名)が、今秋、日本で4回の公演を予定しています。当コーラスは男性合唱で、大変歴史が古く伝統のある合唱団です。これまでに、600回を超えるコンサートを、ポルトガル国内のみならず広くヨーロッパ各地、南北アメリカ大陸、アフリカ、アジアにおいても行っており、その合唱レベルは高く、海外の合唱祭で受賞経験もあります。

大分での公演は、10月18日(木)に予定されており、市内のコーラスグループとのジョイントも計画されています。日本における“西洋音楽発祥の地”大分で、その歴史あるコーラスの魅力伝えるとともに、音楽を通して市民レベルでの交流が深まることが期待されます。

西洋音楽発祥記念碑(遊歩公園)



聖フランシスコ・サビエルがキリスト教を布教して以来、府内(大分)には、教会、孤児院、病院、学校が次々にでき、日本で最初のキリスト教文化が栄えた町となりました。街中では、美しい賛美歌の歌声が流れるようになり、1557年の聖週間には聖楽隊ができ、オルガンの伴奏で賛美歌が合唱されたと、当時の文献に報じられています。

【編集後記】

「アベイロ情報」、楽しんでいただけたでしょうか? 今後も、ポルトガルを知り、ポルトガルを親しむことができるイベントなどの情報を発信していきたいと思ひます。皆様からの情報・お知らせなどありましたら、ぜひ、事務局にお寄せください!

大分日本ポルトガル協会事務局